

Relief

[リリーフ]

2019
JULY
Vo1. 36

CONTENTS

- 2019年度第1回いのちのセミナー
- AED訓練器等助成活動紹介
- 2019年度公募助成活動紹介
- 財団設立10年事業
小・中学生「いのち」の作文・俳句コンクール開催
- 今後の催し等のお知らせ



2019年度 第1回いのちのセミナー

～さまざまな いのちに向き合い いのちを想う～

2019年度いのちのセミナーは、「さまざまな いのちに向き合い いのちを想う」をテーマに8回開催いたします。第1回いのちのセミナーを、6月2日(日)に松下IMPホールにて開催しましたので、その講演内容の一部をお届けします。



「いのち」を最大限に 使い切る生き方

～使う「いのち」が我々の“使命”～

講師：柳家 花緑氏

落語家

本日のタイトルについて

本日の講演のタイトルにある「使命」は、ある本に書かれていたことに由来します。二人の登場人物がいて、神様が乗り移ったイタコにもう一人がインタビューするという設定で、掛け合いのタッチが非常によく、思わず落語の小話にしたいと、許可まで取りに行った会話です。その最後の部分で人間の「使命」について語り掛けるのです。「人間は目標をもって生まれてくる。

大望もあれば、美味しいもの食べたいという目標もある」「ええっ、それだけでもいいんですか」「いいんだ。人間はいろいろなタイミングで亡くなるもので、何かを成し遂げなきゃいけないと思っているけど、そうじゃない。途中でいいんだ」「ええっ、どうしてですか」「人間は命を使い切るのが使命だからだ」と。

また人間は何を楽しみに生まれてくるのかという問いに対しては、「あの世とは食べたいものは何でも出てきて何でも叶う場所で、やがて飽きてしまう。だから、悩みたい、迷いたい、苦しみたいとなり、その3つを体験したくて現世で我々は人間をやっているのだ」と、語ります。

この話には非常に共感しました。そして、皆さんにも是非お話ししたいと思い、本日のタイトルに選んだわけです。

発達障害という病

私は5、6年前に初めて自分が発達障害、学習障害だと知りました。小学校から中学卒業まで主要科目の成績はかなり酷く、高校に進学する学力はありませんでした。漢字も読めないので授業そのものにも興味がなくなり、喋ってばかりいました。多弁

症です。中学に入っても全く落ち着く気配はありませんでした。この多弁症というのは脳の病気で、軽減されることはあっても治りません。一生涯つき合っていかなければならないわけです。

皆が出来ることが自分に出来ないのは結構な傷になり、人として無価値感を感じながら、自分の土台が作れない状態に、全く自信が持てない、そういう状態でした。

ただ、落語家の家庭に生まれ育ち、祖父である5代目柳家小さんの活躍を見ながら9歳の時に落語を始めました。そんな成績でありながら、落語のお陰でいじめにも遭わず、ひきこもりにもならず、やっつけられました。

ものの見方を変えると人生が変わる

人生の「悩みたい、迷いたい、苦しみたい」の一例として、私の発達障害のお話をしましたが、そんなものを自ら欲するなんて嫌だ、となった場合、モノの見方を変えるとそのつらさを緩和させることが出来ます。「幸も不幸もない。そう思う心があるだけ」という話をしますが、我々は、これはいけないこと、これはいいことと最初から決めつけているところがあります。もちろん明らかにやって悪いこともあります。日本ではダメなことが、住む国が違えば許されることもあるなど、立つ位置によって価値観が変わるわけです。皆さん、良い悪いは何によって決めるのでしょうか。「幸も不幸もない。そう思う心があるだけ」とは、なかなか得難い価値観だと思いました。共通認識として幸も不幸も決まっていると思っていましたが、宇宙ではそんなことは言いません。だから自分の判断が大事であるということなのです。

私は「ポジティブに生きる」というのは好きな言葉ですが、「ポジティブ・シンキング」とは異なります。ネガティブなことをポジティブに見よう、つらいのに笑おう、それが「ポジティブ・シンキング」です。私が言いたいのは、ネガティブなのをポジティブに見ようという前提に、ネガティブなものを作り、そういうレッテルを貼っていることが危険だ、ということです。自分の都合の悪いものは全部ネガティブなものとは、まさに自分がネガティブなものを作り出しているわけで、それに気づこう、そして自分の判断を大事にしよう、ということがまず言いたいわけです。

次に「悩み、迷い、苦しみ」を緩和するものとして、「掃除」「笑い」「感謝」について紹介します。

「掃除」には、物理的に周囲をきれいにすること以外に、自分をきれいにすることもあります。そうするとパワーがあがるそうです。

また、「笑い」は、免疫力が上がり血糖値が下がって、がんの予防にもなるといわれています。1回馬鹿笑いをすると数千個のがん細胞が死滅してしまうという有難い効果があり、笑うと体が温まります。体は温かい方がいいに決まっています。

最後に「感謝」です。まずはその反対語が何かということですが、私は「頑張る」だと思っています。「頑張る」とは、無いものをみているのです。例えば、オリンピックでメダルを目指し、既に取った人は金メダルを目指すというように、無いものを追いかけているのです。現状に満足するな、ということです。一方で、

「感謝」とはあるものをみて、あることに感謝するのであり、全く性質が異なるわけです。「幸も不幸もない。そう思う心があるだけ」とは、様々なことに感謝ができるということでもあるのです。「頑張る」に付随する言葉として「努力」があります。「努力」の一部に「奴」がありますが、これは「人に強いられる」という意味があるそうです。頑張って朝までゲームをします、頑張ってお酒を飲みます、というのは普通ありえず、喜んで楽しんでやるものです。頑張るのは一人、一馬力だけど、感謝は何人でも伝えられると考えれば、感謝は伝えた数だけ力が生まれます。自分がこの演台に立ち、皆さまとお会いできるのも、感謝すべき人がたくさんいるから実現できたものだと思います。また、多弁は商売にも役にたっており、この障害だったことにも感謝しています。

このように、モノの見方というもので人生ががらっと変わります。「悩みたい、迷いたい、苦しみたい」を緩和する魔法のようなものだと私は思っています。

人に喜んでもらうために

「いのち」というものを考えたときに、どう使うかは自分自身に任されています。この「いのち」は誰かに指示されるものではないけれど、やはり良い使い方には共通するものがあるわけです。人は、自分がやったことで周りが喜んでいて状況、人に喜ばれると嬉しいという気持ちがあると思います。例えば、私が講演をして皆さんが喜んでいただいたらとても嬉しいわけで、これは教わるものではありません。どこの国の、どんな小さな子供でも、自分がやったことで周りが喜んでくれると嬉しいわけで、どうもそういうことがDNAに入っているのではないかと、ということなんです。人は人に喜ばれるということが最大に嬉しいことであり、つまり自分の夢を叶えたいければ、まず人の夢を叶えましょうということになります。人のために尽くしてあげると周りが今度はこっちを向いてくれる。じゃあ、今度はあなたの番ね、あなたの夢をかなえましょうと。損得勘定があってもいいのです。その人のために動いてあげたことは事実であり、実行したことが大事なのだと私は思います。



AED 訓練器等助成活動紹介

2019年4月から6月にかけて、各地で開催された救命処置の普及啓発のための講習会を訪問しました。各地で取り組む、助成先団体の活動の模様をご紹介します。



4月12日(金) Human Relations SHIN

尼崎市小田支所内の会議室において、救命講習の指導者を対象とした講習会が開催され、高校の先生や防災士ならびに自治会の防災担当者などの参加がありました。最初に、「市民による応急手当の必要性」について配布資料やスライドを使って説明を行い、その後、当財団のAED訓練器等の提供先であるB-NET@SAIDAIJIの講師により、同団体で行っている「たし算プロジェクト講習」等がスライドや訓練人形を用いて行われました。受講者からは多くの質問が出るなど、大変活発な講習会でした。



4月13日(土) Japan Water Active Life-Saving Team

商業施設で行われた「フレンズかわにし2019」のイベントの一角にて、「心肺蘇生体験コーナー」として実施されました。訓練用的人形とモニターを無線により接続し、胸骨圧迫の状況が画面で視覚的に確認できるように工夫されていました。「心肺蘇生体験コーナー」のみならず、ステージにて団体の代表によるAEDを使用した心肺蘇生法のレクチャーが行われ、居合わせた方々に心肺蘇生への理解と具体的な操作に関するPRが行われました。



5月28日(火) 学校法人 田島学園 近畿社会福祉専門学校

介護老人保健施設である吹田徳州苑で働く看護師や職員を対象とした講習会が開催され、施設利用者の安全を守る方法・手技について、近畿社会福祉専門学校の教員3名による指導が行われました。最初に、資料を用いた講義や異物除去法についての説明があり、その後、受講者を2グループに分け、5~6名の少人数単位でAED訓練器と訓練用的人形を用いた実技を行いました。講習生は万が一の事態に備えるため、緊張感を持って講習会に参加しており、講習会中も常にメモをとる姿が印象的でした。



6月6日(木) 垂水マミーズ

神戸市垂水区陸ノ町自治会館にて、小さなお子様を持つ保護者を対象とした講習会が開催されました。受講者は神戸市が運営するWEB講習を事前に受講することが必須であり、講習会の最初に同講習の「市民救命士講習テキスト(神戸市消防局作成)」に沿って復習が行われました。次に、小児人形と乳児人形を用いた実技を重点的に行い、最後に、乳児の「誤嚥・誤飲」に関する講習も実施されました。受講者からは乳児及び小児の救命処置に関する質問が多く寄せられた、大変活発な講習会でした。



6月12日(水) B-NET@SAIDAIJI

奈良市西大寺北小学校にて、小学校教諭を対象とした講習会が開催されました。夏を迎えるにあたり、水泳をはじめとした体育授業に役立つ内容が重点的に扱われ、「救急連絡・心肺蘇生・AED使用」は1人に対応するには限界があることを知ってもらうとともに、「チームで救命(救護)」するという連携の必要性について説明がありました。実際に訓練用的人形を用いた講習では、1人が心肺蘇生を行っている際も、他の教諭は「テンボよし、深さよし、押す位置よし」と声をかけるなど、全員で取り組んでいました。



6月19日(水) 特定非営利活動法人 ニューいぶぎ FASTいぶぎ

神戸市立井吹の丘小学校の教員を対象とした講習会が開催されました。同校では、毎年プール開き前に校長先生をはじめ、全ての教員を対象とした市民救命士講習を実施しており、生徒のいのちを守るために受講者は真剣な眼差しで参加し、質問が飛び交う大変活気のある講習会でした。また、最初に受講者のレベルを確認し、個人のレベルにあわせた指導が行われるなど、効果的な講習が行われていました。



6月20日(木) 大東市立大東中学校

大東市立大東中学校1年生の生徒を対象とした講習会が開催されました。講習会は1限分(50分)の時間を使って行われ、最初に救命処置に関する講義を行い、その後、訓練用的人形、AED訓練器などを用いて胸骨圧迫やAED操作に関する実技講習を行いました。同校では「Daito AED Project」と称して、在学3年間を通じて、いのちの大切さに関する学習を行っており、講習会では保健委員の生徒がリーダーシップをとり、効果的な講習会となるように努めている姿が印象的でした。



6月21日(金) 防犯、防災および救援ボランティア チームTEC安²

神戸龍谷中学校2年生の生徒を対象とした講習会が開催されました。救命処置に関する全般的な知識についてDVDを視聴した後、救命処置の大切さについての講話、その後、グループに分かれて、経験豊富な講師より胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用など救命処置の流れが理由も含めて丁寧に説明されており、生徒も繰り返し行っていました。同校によると受講した生徒は、日頃から人工呼吸用マウスピースを携帯するなど、「いのちを守る」ことに対する意識が高まっているとのことであり、講習会の効果の大きさを感じました。



6月21日(金) 認定NPO法人 子どものみらい尼崎

子育て支援者を対象とした講習会が開催されました。最初に、「乳幼児救命法」のテキストを用いて説明を行い、その後、DVDを使用して救命法に関する一連の流れを確認しました。続いて行われた実技講習では、主に乳児の胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使用までの一連の流れを行い、最後に異物除去についても説明がありました。大事な子どもの命を守るために、乳児特有の対処方法に重点を置いた講習内容であり、質問も多く、参加者の熱意や真剣さを感じる講習会でした。



6月24日(月) 有限会社 志縁塾 大阪支部

大阪市総合生涯学習センターにおいて一般の方を対象に講習会が開催されました。最初に、一次救命処置の重要性及び胸骨圧迫とAED使用方法について、スライドを使用して説明を行いました。次に、簡易なトレーニングツールを使用した胸骨圧迫を行い、女性へのAED使用方法に関する注意点についても説明が行われました。訓練用的人形とAED訓練器を使用した実技講習も、一人当たり十分な実技時間を確保した形で行われ、充実した講習会であると感じました。



6月26日(水) 大阪市立住吉第一中学校

住吉第一中学校保健委員の生徒を対象とした講習会が開催されました。最初に、昨年度の保健委員が作成した救命処置の一連の手順に関するDVDを視聴し、その後、班に分かれて訓練用的人形とAED訓練器を用いて心肺蘇生法ならびにAED操作方法に関する実技講習が行われました。同校では保健委員の生徒を中心に、心肺蘇生法などの救命処置に関する知識がしっかりと定着しており、生徒の習得レベルの高さを感じる講習会でした。

2019年度公募助成活動紹介

2019年度公募助成団体の6月までの活動(イベント)内容をご紹介します。
今年度も活発に活動なさっていらっしゃいます。

フレンズかわにし2019

4月13日(土) フレンズかわにし実行委員会



福知山線列車事故の風化防止とともに、安全な社会を実現したいとの思いから始まったイベントで、今回も川西市の商業施設で行われました。今回は3つの団体の音楽ライブや、同事故で被害に遭われた方のトークセッション等が行われたほか、救命処置の浸透を目指して活動する団体による、AEDを使った救命処置の体験ブースが用意され、多くの人々が集まる活気のあるイベントとなっていました。ライブでは、出演団体はそれぞれ事故の風化防止等についてイメージした曲を演奏し、思いを込めている姿が強く心に残りました。



高所活動安全管理スキルアップ講習会

6月8日(土) 災害時要配慮者救援NPOレスキューアシスト



大阪北部地震等の災害により破損した屋根の養生作業等の支援に取り組む団体です。今回は茨木市や各地のボランティア団体のリーダー約15名が参加し、屋根のブルーシート応急処置支援を適切に行うための安全管理スキルアップ講習会が行われました。大阪北部地震から1年経った現在も支援要請があるようで、屋根上でのロープの結び方講習、滑車を使った資材搬出入作業、屋根からの転落事故を想定した救助訓練が行われました。安全管理を含めた支援活動のリーダー育成にも取り組んでおり、発生する災害に備え、知識、技術を体得し、有事の際の迅速な対応につなげる有意義な活動だと感じました。



ぼうさいひろば

6月9日(日) 災害で生活が変わった子供を支援する会[平成30年7月豪雨特別枠]



広島市安芸区矢野地区の子供たちを対象に、災害に負けない心を育てることを目的に、防災教育や体験活動を開催している団体です。今回は非常用持出袋とサバイバルウォーターづくりをテーマに体験活動が行われ、参加した21名の子供たちは、ペットボトルに小石や砂等を入れて作った手作りろ過装置を用い、きれいな水づくり等を行いました。昨年の豪雨災害により子供たちから笑顔が少なくなったとの声もあるなか、参加した子供たちからは、楽しそうな良い表情が見られました。また活動への参加によってポイントを獲得し、それを集めると銅から銀、銀から金にメダルの色が変わっていく仕組みがあり、参加意欲を高める工夫もされていました。



災害図上訓練

6月16日(日) 生きる力を育む研究会



伊丹市内の自治会を対象に、災害時避難行動要支援者に対する支援を意識した「災害図上訓練」が実施されました。自治会の約40名が参加し、4班に分かれてワークショップが行われました。防災に関する意識を相互に確認するため、南海トラフ地震が発生した際の危険性と避難時に携帯する物についてのアンケートがあり、様々な意見が交わされました。その後、各自が住んでいる地域の子どもや高齢者、障がい者など、支援が必要な方々の居住状況を地図に表し、大規模地震が発生した際の避難に必要な配慮、工夫などについて議論を行いました。図上の訓練とはいえ、防災意識や、地域のつながりを高める非常に意義のある取り組みであると感じました。



みはら遊ぼうさい

6月23日(日) 三原vivaプロジェクト実行委員会[平成30年7月豪雨特別枠]



平成30年7月豪雨災害から1年を前に、災害と向き合えるよう色々な体験と心の準備をすることが出来る防災体験学習会が開催され、子供たちや学生ボランティア合わせて約80名の参加がありました。紙による食器づくりや、防災クイズなど様々なワークショップコーナーが用意され、すべて参加しスタンプを集めることで「防災キッズ認定証」がもらえるなど、子供たちが喜んで取り組む工夫がされていました。災害から1年が経とうとしている今でも「雨が降ると怖い」という人たちがたくさんいるとのことで、少しでも安心につながるこのような取り組みはまだ必要だと感じました。



避難所シミュレーション

6月30日(日) さかい聴覚障害者防災ネットワーク



本ネットワークは、堺市内の聴覚障害者団体などで構成され、聴覚障害者の防災力を高めるための活動をしており、今回の活動は聴覚障害者と支援者等80名を超える参加者により行われました。まず施設内の体育館で、避難時の一人分の場所を床に線引きし、避難所の実体験を行い、その後、避難時に自分たちが出来ること、必要なこと等の課題を、グループに分かれてディスカッションし、各グループ毎に発表を行いました。世話役が一人ずつ配置され、情報がしっかり伝わる体制が取られているなど参加者への配慮が随所になされていました。



小・中学生「いのち」の作文・俳句コンクール開催のお知らせ

2009年4月1日に設立した当財団は、これまで「安全で安心できる社会づくり」に少しでも貢献したいという思いから、「いのち」をテーマとした事業を行ってきました。本年4月に設立10年を迎えたことから、設立10年事業として「小・中学生『いのち』の作文・俳句コンクール」を開催します。

- 「いのち」についての作文・俳句をつくることを通じて、「いのち」の大切さを考えていただけます。
- 優れた作品は、作品集の発行などにより世の中にお伝えします。



テーマ	あなたにとっての「いのち」 「いのち」について、誕生の喜びや失った悲しみ、力強さや弱さ、美しさや輝きを感じた瞬間など、さまざまな観点からの作品を募集いたします。
募集対象	近畿2府4県に在住・在学の小・中学生
募集期間	作文/2019年7月1日(月)～9月20日(金) 俳句/2019年7月1日(月)～10月18日(金)
募集内容	作文/所定の原稿用紙(400字詰め)にて作成(枚数:1～4枚) 俳句/所定の投句用紙にて作成してください。(1人につき2句まで)
表彰	【個人賞】入選者に表彰状および副賞(図書カード)を贈呈します。 【参加賞】応募者全員に贈呈します。 【学校賞】学校単位の応募数が上位の学校に贈呈します。

詳しくは、当財団ホームページをご覧ください。(https://www.jrw-relief-f.or.jp/10th/)



2019年度 公募助成イベント情報

2019年度公募助成先団体の活動予定をご紹介します。内容等の詳細は、各団体へ直接お問い合わせください。

かんまきサバイバルラボ -子どもサバイバルキャンプ- [申込要、参加費1,500円]

「いのちの大切さ」をテーマに救助、応急手当、AED使用など体験訓練をします。夜はテントで野営し、避難所の疑似体験をしてもらいます。
※上牧町内(奈良県)の児童が対象の為、他からご参加の方は人数枠に限りがあります。

日 時: 8月17日(土) 12:00~18日(日) 12:00まで
場 所: 桜ヶ丘公民館 桜ヶ丘東公園グラウンド
(JR王寺駅より奈良交通バス「桜ヶ丘1丁目」下車 徒歩6分)
問合せ: 子どもサバイバルキャンプ実行委員会
TEL.FAX: 0745-32-8706
MAIL: s.tsuji@vega.ocn.ne.jp

この日を忘れない ~広島豪雨災害 あの日から5年~ [申込不要、参加費無料]

平成26年広島市土砂災害の発生から5年。昨年は西日本豪雨による被害も受けた地域で、残された家族や住民の方のための癒やしの場として講演と歌のライブを行います。

日 時: 8月20日(火) 13:00~
場 所: 広島市安佐北区民文化センター
(JR可部駅よりバス「安佐北区民文化センター入口」下車 徒歩7分)
問合せ: 虹色の音
TEL: 090-4103-2054

Huuug なりきりステージ3匹のこぶた ~防災教育~ [申込不要、参加費無料]

主に未就学児を対象に、わかりやすく楽しみながら参加できる、いのちを守る防災教育を実施します。元タカラジェンヌのお姉さんと一緒に、全員参加型ミュージカルによる、いのちの守り方を学ぶステージをお届けします。

日 時: 9月8日(日) 13:00~
場 所: 大阪府立大型児童館 ビッグバン こども劇場
(泉北高速鉄道 泉ヶ丘駅 徒歩3分)
問合せ: 大阪府立大型児童館 ビッグバン
TEL: 072-294-0999
団体名: 一般社団法人ハーグ

2019年度 第4回・第5回いのちのセミナー ~さまざまな いのちに向き合い いのちを想う~ 開催・募集開始のお知らせ

第4回 2019年9月5日(木)

時間 18:30~20:00

会場 毎日新聞
オーバルホール

講師 金菱 清

災害社会学者
東北学院大学教授



応募締切: 8月5日(月)

第5回 2019年9月27日(金)

時間 18:30~20:00

会場 毎日新聞
オーバルホール

講師 吉田 実盛

天台宗鶴林寺塔頭真光院住職
叡山学院教授



応募締切: 8月27日(火)

応募方法

- 当財団ホームページ (<https://www.jrw-relief-f.or.jp/seminar/inochi/>) からお申込みください。
- ハガキでもご応募いただけます。「希望の回(第4回又は第5回)いのちのセミナー参加希望」と明記のうえ、参加される方の氏名(フリガナ)・郵便番号・住所・電話番号を記載し、以下の宛先へお送りください。
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 JR西日本あんしん社会財団宛
- ・1名様1回(ハガキは1枚)限りのご応募とさせていただきます。また、1回に2名様以上のご応募はお受けできませんので、あらかじめご了承ください。
- ・第4回・第5回の各別に(ハガキも別々)にお申込みください。

セミナー応募



アンケート実施中

毎号、皆様からご好評いただいておりますReliefにつきまして、いつもご感想をお聞かせくださり、ありがとうございます!

今号についてのご意見やご感想もお待ちしております。 (<https://www.jrw-relief-f.or.jp/enquete/>)



編集後記

2019年度いのちのセミナーが始まりました。第1回目は、落語家の柳家花緑さんをお迎えし、軽快な語り口でいのちについてお話しいただきました。いのちのセミナーは、各回ごとに随時募集しておりますので、奮ってご応募ください!

広報誌「Relief」2019年7月号(vol.36)

【表紙写真: 2019年度公募助成団体「三原vivaプロジェクト実行委員会」の学生ボランティアが子供たちと防災クイズをしている様子】

Relief(リリーフ)には「ほっとする、安堵、安心」といった意味があります。当財団は、「安全で安心できる社会」の実現を目指した事業に取り組んでいます。

編集発行/公益財団法人JR西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 TEL: 06-6375-3202 ホームページ: <https://www.jrw-relief-f.or.jp/>



Facebook



ホームページ

